

# Asia Indicators

発表日: 2022年7月22日(金)

ニュージーランド、4-6月のインフレ率は丸32年ぶりの水準に(Asia Weekly(7/18~7/22))

~インフレ昂進を受けて中銀は引き締めペースを加速させる可能性も~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/18(月)	( <a href="#">ニュージーランド</a> )4-6月消費者物価(前年比)	+7.3%	+7.1%	+6.9%
	( <a href="#">シンガポール</a> )6月非石油輸出(前年比)	+9.0%	+6.7%	+12.0%
7/19(火)	( <a href="#">香港</a> )6月失業率(季調済)	4.7%	--	5.1%
7/20(水)	( <a href="#">マレーシア</a> )6月輸出(前年比)	+38.8%	+20.1%	+30.5%
	6月輸入(前年比)	+49.3%	+30.4%	+37.3%
	( <a href="#">台湾</a> )6月輸出受注(前年比)	+9.5%	+5.6%	+6.0%
7/21(木)	( <a href="#">ニュージーランド</a> )6月輸出(億NZドル)	64.2	--	68.7
	6月輸入(億NZドル)	71.2	--	66.8
	(インドネシア)金融政策委員会(7日物リバースレポ金利)	3.50%	3.50%	3.50%
	( <a href="#">香港</a> )6月消費者物価(前年比)	+1.8%	--	+1.2%
7/22(金)	( <a href="#">マレーシア</a> )6月消費者物価(前年比)	+3.4%	+3.1%	+2.8%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

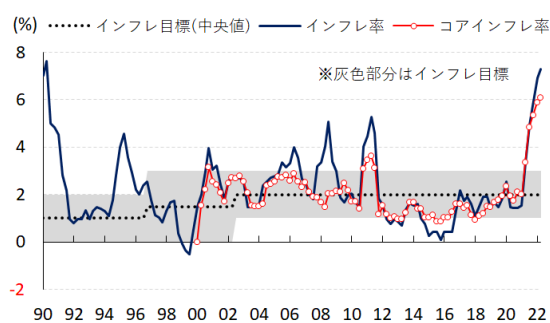
### [ニュージーランド]~生活必需品を中心とする物価高にNZドル安も重なり、インフレ率は32年ぶりの水準に~

18日に発表された4-6月の消費者物価は前年同期比+7.3%となり、前期(同+6.9%)から加速して1990年4-6月以来となる丸32年ぶりの高い伸びとなった。前期比は+1.66%と前期(同+1.78%)から上昇ペースはわずかに鈍化しているものの、原油をはじめとするエネルギー資源の上振れを反映してエネルギー価格は上昇傾向が続いているほか、穀物などの国際商品市況の上振れを受けて生鮮品を中心とする食料品価格も上昇が続くなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる展開をみせている。生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同期比+6.09%と前期(同+5.88%)から加速しており、過去に遡って最も高い伸びとなっているほか、インフレ率とともに中銀(NZ準備銀行)の定めるインフレ目標(1~3%)を上回る推移が続いている。前期比は+1.32%と前期(同+1.07%)から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、金融市場におけるNZドル安の進展による輸入物価の押し上げも重なり幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、感染拡大の一服を受けた経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価も上昇するなど、全般的にインフレ圧力が強まる動きがみられる。中銀は今日13日の定例会合において6会合連続の利上げ実施を決定するとともに、先行きも金融引き締めを継続する方針をあらためて強調したも

の（注1）、インフレの上振れを受けて引き締めペースを加速させる可能性が高まると予想される。

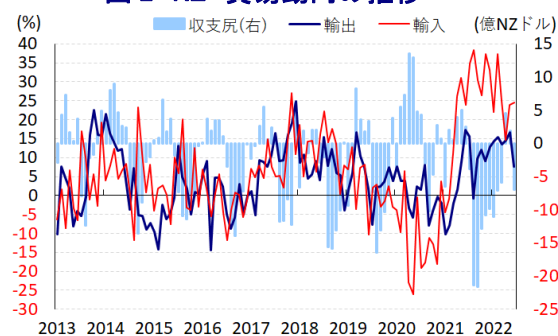
21日に発表された6月の輸出額は前年同月比+7.7%となり、前月（同+16.7%）から伸びが鈍化している。前月比は+0.5%と前月（同+4.5%）から5ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。財別では、材木及び木製品や原油関連の輸出額に下押し圧力が掛かる一方、主力の輸出財である乳製品や食肉関連の堅調な動きが輸出額全体を押し上げている。国・地域別では、隣国の豪州のほか、EU向けなどが頭打ちする動きがみられるものの、中国やASEANなどアジア新興国向けや、米国や日本など向けの堅調さが輸出全体を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比+24.6%となり、前月（同+23.9%）から伸びが加速している。前月比も+6.3%と前月（同+6.6%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に底入れの動きが続いている。景気拡大の動きを反映して機械関連の輸入が堅調な推移をみせているほか、原油価格の底入れの動きを反映して原油及び石油製品関連の輸入額が大きく上振れしていることも輸入額を押し上げている。結果、貿易収支は▲7.01億NZドルと前月（+1.95億NZドル）から3ヶ月ぶりの赤字に転じている。

図1 NZ インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図2 NZ 貿易動向の推移



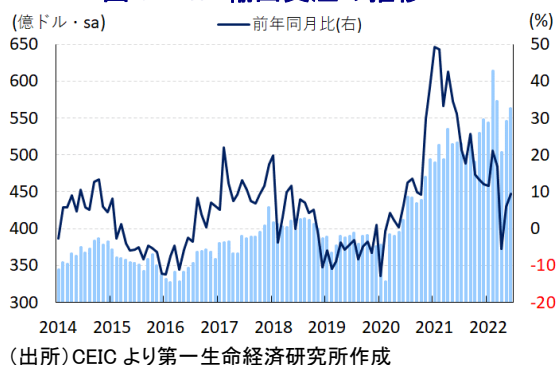
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### [台湾]～世界経済の回復、IT関連需要の旺盛さを反映して、輸出受注は底入れの動きが続いている～

20日に発表された6月の輸出受注額は前年同月比+9.5%となり、前月（同+6.0%）から伸びが加速した。前月比も+3.15%と前月（同+8.45%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。国・地域別では、中国本土向けは頭打ちする動きが続いている一方、米国向けやEU向け、日本向けなど先進国向けを中心に堅調な動きがみられるなど、世界経済の回復の動きが受注を押し上げている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連やIT関連、電気機械関連で旺盛な動きがみられるなど、世界的なIT需要の旺盛さが受注を押し上げている様子がうかがえる。

注1 7月13日付レポート「[ニュージーランド中銀、金融引き締めの継続をあらためて強調](https://www.dlri.co.jp/report/macro/193784.html)」  
(<https://www.dlri.co.jp/report/macro/193784.html>)

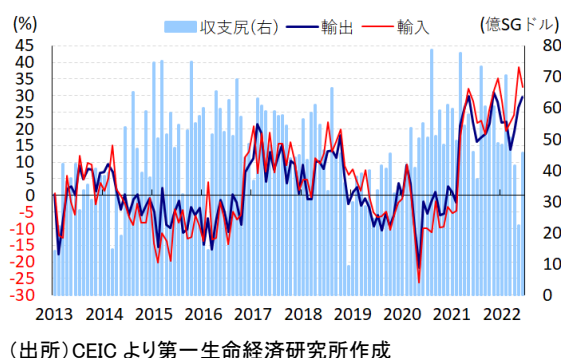
図3 TW 輸出受注の推移



### [シンガポール]～世界経済の回復や商品市況の上振れを反映して、輸出入双方で底入れの動きが続く～

18日に発表された6月の非石油輸出額は前年同月比+9.0%となり、前月(同+12.0%)から伸びが鈍化した。前月比は+3.65%と前月(同+2.77%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど頭打ちの動きが続いた流れは一転底打ちしている。主力の輸出財である半導体など電子部品をはじめとする機械製品関連のほか、発電機、化学製品関連などで底入れの動きが確認出来る。なお、原油などを含む総輸出額は前年同月比+29.5%となり、前月(同+26.4%)から伸びが加速している。前月比も+2.5%と前月(同+3.0%)から9ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。原油をはじめとする国際商品市況の上振れを反映して輸出額が押し上げられている様子もうかがえる。一方の輸入額は前年同月比+32.5%となり、前月(同+38.6%)から伸びが鈍化している。前月比は+0.1%と前月(同+5.3%)からペースは鈍化するも4ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。機械製品関連や化学関連のほか、原油及び石油製品関連など幅広い財で底堅い動きが続いており、国際商品市況の上振れに加え、輸出の堅調さは素材及び部材などに対する需要を下支えしている。結果、貿易収支は+45.63億SGドルと前月(+22.42億SGドル)から黒字幅は拡大している。

図4 SG 貿易動向の推移



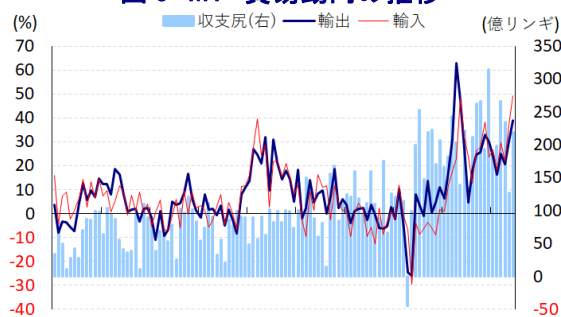
### [マレーシア]～世界経済の回復は輸出入を押し上げるなか、全般的にインフレ圧力が強まる動きも確認～

20日に発表された6月の輸出額は前年同月比+38.8%となり、前月(同+30.5%)から伸びが加速した。前月比も+19.5%と前月(同+1.1%)から2ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きが続いている。国・地域別では、中国向けやASEAN周辺国向けのみなら

ず、米国やEUなど先進国向けなど幅広い地域で底入れの動きがみられるなど、世界経済の回復の動きが輸出を押し上げている。財別でも、主力の輸出財である半導体など電子部品関連のほか、鉱物資源関連、農産品など幅広い財で輸出額が底入れしており、国際商品市況の上振れも輸出額を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+49.3%となり、前月（同+37.3%）から伸びが加速した。前月比も+19.2%と前月（同+6.5%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に底入れの動きが続いている。輸出の堅調さを反映して中間財や資本財関連の輸入が堅調な推移をみせているほか、感染一服による経済活動の正常化の動きを反映して消費財の輸入も底堅い動きをみせるなど、全般的に堅調に推移している。結果、貿易収支は+219.31億リングと前月（+126.98億リング）から黒字幅が拡大している。

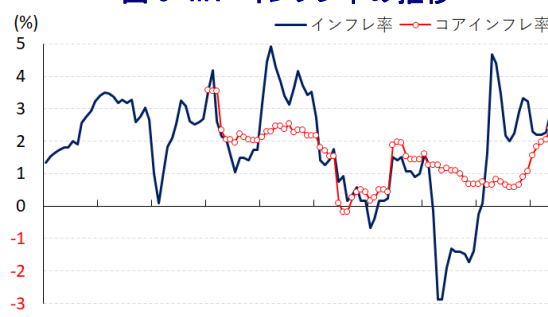
22日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+3.4%となり、前月（同+2.8%）から加速して6ヶ月ぶりに3%を上回る伸びとなった。前月比は+0.63%と前月（同+0.56%）から上昇ペースが加速しており、穀物をはじめとする商品市況の上振れを反映して食料品価格に押し上げ圧力が掛かるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.97%と前月（同+2.39%）から加速しており、2016年3月以来の伸びとなっている。前月比も+0.56%と前月（同+0.40%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、金融市場における通貨リング安に伴う輸入物価の押し上げも重なり幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かっているほか、感染拡大一服による経済活動の正常化を反映してサービス物価も上昇しており、全般的にインフレ圧力が強まっている。

図5 MY 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図6 MY インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### [香港]～経済活動の正常化を反映して雇用の底入れが進むなか、インフレ圧力も徐々に強まっている模様～

19日に発表された6月の失業率（季調済）は4.7%となり、前月（5.1%）から0.4pt改善して4ヶ月ぶりに5%を下回る水準となった。失業者数は前年同月比▲3.6万人と13ヶ月連続で減少するも、前月（同▲4.4万人）から減少ペースは縮小している。一方の雇用者数は前年同月比▲10.0万人と4ヶ月連続で減少しているものの、前月（同▲10.4万人）から減少ペースは縮小しているほか、不完全雇用者数は同+1.6万人と3ヶ月連続で拡大するも前月（同+2.4万人）から拡大ペースは縮小するなど、雇用は底打ちするとともに、雇用を巡るミスマッチも縮小している。感染拡大一服を受けた経済活動の正常化の動きを反映して、小売関連や飲食関連のほか、観光関連部門を中心に雇用が底打ちしているほか、建設関連や娯楽関連など幅広い分野で雇用を取り巻く環境が改善していることを反映している。

21日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+1.8%となり、前月（同+1.2%）から伸びが加速した。前月比は+0.29%と前月（同▲0.19%）から3ヶ月ぶりの上昇に転じており、原油や天然ガスなどエネルギー資源価格の上振れを反映してエネルギー価格が上昇の動きを強めているほか、穀物などの商品市況の上振れを受けて食料品価格も上昇するなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きがみられる。なお、香港では2007年以降断続的に公営住宅を対象とする賃料減免措置をはじめとする生活支援策が実施されており、その影響を除いたベースでも当月は前年同月比+1.8%と前月（同+1.7%）から伸びが加速している。前月比も+0.10%と前月（同+0.00%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れを反映して幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かっているほか、感染拡大の一服による経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価も上昇するなど、全般的にインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。

図7 HK 雇用環境の推移

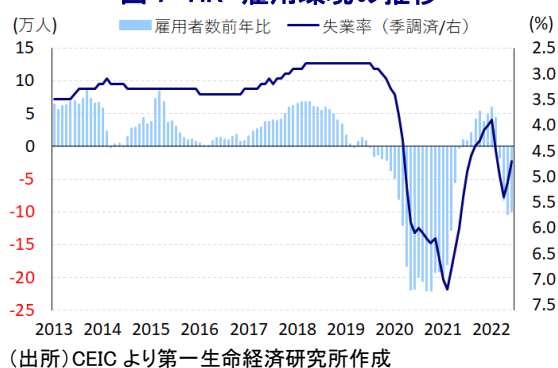
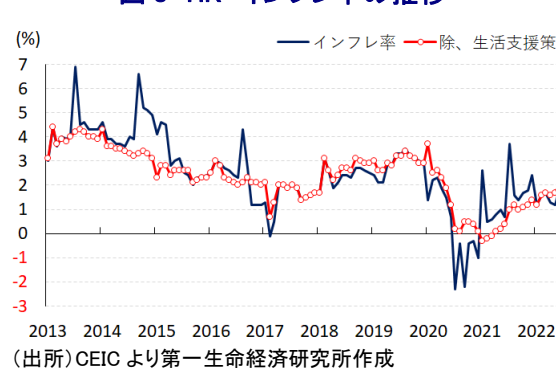


図8 HK インフレ率の推移



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。